

第3回 福岡空港滑走路増設事業環境影響評価技術検討委員会
(議事要旨)

日 時：平成26年10月1日(水) 13:00～14:40

場 所：福岡第二合同庁舎 2階 共用第2～4会議室

出席委員：

薛 孝夫 (西日本短期大学 特任教授)
野上 敦嗣 (北九州市立大学 国際環境工学部 教授)
松藤 康司 (福岡大学 工学部 教授)
吉久 光一 (名城大学 理工学部 教授)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 環境影響評価に係る手続きの経過報告について

- ・準備書に係る公告、縦覧、説明会等のこれまでの環境影響評価に係る手続きの経過について事務局から報告を行った。

2. 福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価準備書(案)について

- ・資料2.「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価準備書(案)」について、事務局より説明を行った。以下の質疑及び助言がなされ、内容の了解がなされた。

【大気質について】

委 員：航空機関連については、バックグラウンド濃度に対して10分の1以下なので問題ない。建設機械の稼働に伴う二酸化窒素に関し、年間98%値に該当しない6～7日についても環境保全目標以下であるか確認したい。

事務局：年平均値から日平均値の年間98%値に直接変換しているため、年間100%値に相当する数値は算出していないが、数値は年間98%値に比べ2%程度大きくなると考えており、その場合でも環境保全目標を下回ると考える。

委 員：日平均値が高い値を示した気象上の共通的な特色はあるか。

事務局：大気安定度と風速を考慮し、予測値が最大となる条件で予測している。

【騒音等について】

委 員：騒音、振動、低周波音についてはしっかりと現況調査、予測された内容になっている。工事中の騒音について、通常では敷地境界でしか予測しないが、周辺地域まで予測されており、環境基準との比較検討も行っていることは良いと思われる。航空機騒音が一部環境基準を超過しているため、防音壁を環境保全措置としているが、この防音壁の高さと材質についてどのように設定されているのか。道路事業では防音壁の景觀にも配慮している。

事務局：防音壁の高さは15m程度を想定している。材質は、今後、地元と調整し検討してまいりたい。

委 員：景觀について評価書段階で検討が必要かもしれない。また、航空機の低騒音化について、少なくとも古い型式のB747-SRやB747-200を除外して騒音予測を

行くと環境保全目標をクリアできるのではないか。

事務局：将来の運航想定に低騒音機の導入促進を反映させることは、航空会社の動向もあることから、予測の条件とすることは困難と考える。

委員：防音壁にデザインを取り入れた事例はあるのか。

事務局：空港に整備された防音壁にデザインを取り入れた事例や、透明な材質を使った事例はなかったと記憶している。

委員：空港の西側に福岡都市高速があるので、景観には留意されたい。また、道路の防音壁と比べるとかなりの高さになる。日照に問題が生じないように留意されたい。

事務局：景観、日照も含め地元と調整し、検討を進めてまいりたい。

【植物】

委員：陸生植物と水生植物に分けて調査されているが、陸生植物の表の中に水生植物が含まれている。また、陸生植物の予測結果に挙がっているものに水生植物が含まれている。

事務局：再度整理させていただく。

【その他】

委員：近年の異常気象に対する対応、周辺への影響は検討されているのか。例えば、ゲリラ豪雨を対象とした検討は行われたのか。

事務局：ゲリラ豪雨を対象とした検討は実施していない。環境影響評価として標準的な状況を見込んで検討している。

委員：供用中空港なので、新空港整備の場合と違うと思うが、特異な気象条件時の状況についても地元の説明できるとよい。

事務局：インフラ整備としてどのような設定をして検討していくか、どこにどのような心配があるかを確認していく必要はあると思われる。ただし、環境影響評価において、その設定を行って評価することは現実的ではないと考える。

事務局：ご指摘を踏まえ、委員会資料の修正を行い、委員長のご了解を得た後に、HPにて公表させていただきたい。

以上